



浜松から、もっと快適で地球にやさしい暮らしを

シンフォニー通信

[VOL.06]

2021年2月発行

浜松市内におけるソーシャルビジネスの支援



左:ワークショップ(2020年2月)
右上:オンラインセッション(2020年8月)
右下:メンタリングセッション&
インタビュー(2020年11月)

当社は、地域社会に貢献する取り組みの一環として、浜松市における「ソーシャルビジネス」の起業・展開を支援しています。ソーシャルビジネスとは、環境保護や少子高齢化、まちづくりなどの社会課題の解決にビジネスの手法を用いて取り組む事業を指し、地域において新たな雇用や市場を創出するなど地域活性化につながるとして政府も推進しています。

当社は株式会社Hub Tokyoと提携し、2年間に1件の事業を支援することを目標に、起業家のニーズに応じた個別セッションやチームでの議論などを通じて事業計画の策定からマーケティング、プロモーション、実務準備に至るまでの過程をサポートするプログラムを展開しています。2019年に「サーキュラーエコノミー(循環型経済)」をテーマに浜松市内で募集したところ、5組6名の社会起業家がプログラムに参加されました。その後、オンラインセッションを重ねていくなかで

参加された起業家の取り組み



廃棄竹から
食品腐敗防止シートを作成



古着クリーニング&
交換



アオサから染料を製造



天竜木材で
スプーンを製造

1件の事業を選出し、事業の立ち上げを支援しました。選出された事業は、竹の抗菌効果を活用して食品の腐敗を遅らせる包装紙の販売を通じて、食品ロス問題の解決を目指す事業です。まだ生まれたばかりの事業ですので、今後も継続的に必要な支援をしていきたいと考えています。

2019-2020年のプログラムに参加された他の4組の起業家も、捨てられたガラクタや廃材で家具を作り販売する事業や、浜名湖で大量発生するアオサから染料をつくる事業などを通じて、浜松市における社会問題に取り組んでおられました。これらの起業家の方々には次回もお声掛けしたいと思います(ソーシャルビジネス担当)。



シンフォニー通信とは

シンフォニー通信は、浜松ウォーターシンフォニー株式会社が年2回発行している広報紙です。

当社は、2018年4月より、浜松市上下水道部のパートナーとして、安全、安心の下水道サービスを提供し続けるべく、西遠処理区の施設の運営を行っています。本誌で、当社の地域貢献活動など様々な取り組みを紹介していきます。

従業員インタビュー

西遠浄化センターでは、下水処理に必要な数千点の機器が24時間365日休むことなく稼働しています。施設工事部では、機器が止まることなく運転できるように、担当業者に機器の更新を発注しています。今回は施設工事部の業務を、従業員へのインタビューを通じてご紹介します。

施設工事部のメンバー



——日々どのような業務を行っていますか？

中村：西遠浄化センターでは約4,600台の様々な機械を管理しており、古いものでは1986年から使用しています。古くなった機械が壊れて下水処理ができなくなる前に、機械の更新工事を実施しています。また、改築工事の監督員として、改築対象施設の設計にミスがないかどうかの確認や、工事監督業務を行っています。

——業務でやりがいを感じる場所は？

小野田：受注業者と協力して手掛けた新規設計設備が、無事工事を完工して順調に稼働した時に、安堵感と達成感を感じます。また、最新の技術を導入することでより効率的な処理ができるようになった時には、やりがいを感じます。新しい機械を導入することで消費エネルギーや温室効果ガスの削減、維持管理に係る手間を減らせるよう、日々検討しています。

——業務を行う上で大切にしていることはありますか？

大塚：設計が常に安全性・安定性を確保した仕様となっていることを前提に、ミスがないかどうかを確認しています。小さなミス一つで下水処理場が停止するようなことが起きないように、十分な調査を実施し、安全な環境が最優先となるように心掛けています。

中村：まず大事にしているのは安全です。工事を行う際には安全第一で事故の無いよう気を付けています。また、工事の計画を立てる際には使える機械はなるべく長く使い、工事にかかる費用はなるべく抑えるよう気を付けています。一方で古い機械を使うことにより、維持管理費が大きくなってしまいうこともありますので、工事費と維持管理費の両面から最も効率的な運用ができるよう検討しています。



空気配管の工事が問題なく完了したかどうかを確認しています。石鹼水をかけて空気が漏れていれば泡立つので、空気漏れがないかどうかを確認できます。

——浜松市民の皆様に伝えたいことはありますか？

小野田：下水処理場は年中無休の設備です。改築工事を行う際は、水処理機能と処理水品質の確保を前提として設備停止を最小限に抑えるような改築プランを立案することが必要であり、責任の重い業務を担っていると考えています。今後も長い間下水処理場として運用管理していくため、既設設備より機能・安全性・安定性の高い設備の導入を心掛けていきます。

次回は、経営管理本部の業務内容についてご紹介します。

天竜川クリーン作戦

昨年11月22日に行われた「天竜川クリーン作戦」(主催:国土交通省)に、当社から19名が参加しました。昨年に比べて台風が少なかったため天竜川上流から流れてきたごみは少なかったですが、テレビや小型船の破片、飲み終わったペットボトル等を回収しました。



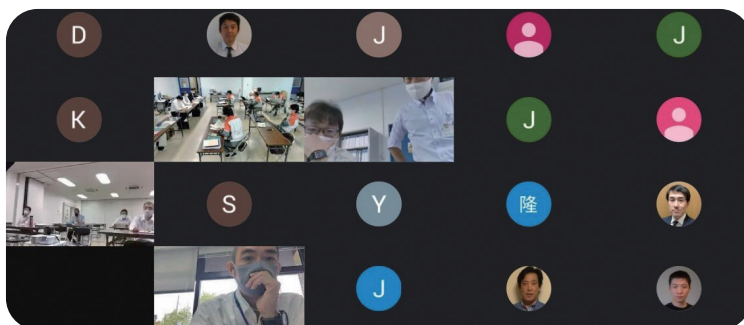
オンライン施設見学

現在、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、西遠浄化センターの施設見学の受け入れを休止しています。このため、現在、オンラインで施設見学ができるように、施設案内の動画を制作中です。小中学校の社会科見学や企業のお客様の視察等にも対応できる予定ですので、もしご興味ございましたら当社までご連絡ください。



月例報告会の開催

当社では、西遠浄化センターの経営状況、維持管理状況、改築工事の状況を浜松市に報告し、市のモニタリングを受ける「月例報告会」という会議を開催しています。モニタリングは当社が浜松市および市民の皆様に対する事業の透明性や信頼性を担保する上で重要な取り組みです。新型コロナウイルスの影響により現在はオンラインで開催されていますが、モニタリングが滞りなく実施されるように、日々業務に取り組んでいます。



環境新聞に掲載されました

当社COO(最高執行責任者)の参加する鼎談が、環境新聞に掲載されました。下水道は、感染症の流行や自然災害などの危機下においても止めることのできない「エッセンシャルサービス」です。鼎談は「リスクマネジメントからリデザインするアフターコロナの下水道」をテーマに行われ、当社COOは下水処理場の運転管理を担う民間企業の立場から、新型コロナウイルス流行下における対策や心構え、コロナ後を見据えた下水道業界におけるDX(デジタルトランスフォーメーション)などについて発言しました。



下水処理場の豆知識: 散気装置



左のセラミック板から右の筒状の散気装置に更新しました。

西遠浄化センターでは、下水処理を行う際に汚水が入った水槽へ空気を送っています。空気を送る理由は、水中にいる微生物が元気に活動できるようにするためです。微生物もヒトと同じで、酸素がないと生きていけません。微生物が元気になるためには、より多くの細かい空気が必要になります。金魚や熱帯魚の水槽で見られるブクブクした泡と同じ原理です。

従業員インタビューでご紹介した施設工事部では、細かな空気をより多く送ることのできる散気装置の導入工事を発注しました。工事をする前は、左上の写真のようなセラミックス(無機物を加熱処理して焼き固めたものを指します。硬い石のようなもの)が深さ8mの水槽の底に配管と共に取り付けられていました。工事後は、ゴム製の膜を使用した筒状の散気装置を使用し、セラミックスよりも微細で多くの空気を送り出します。水槽は、一般的な水族館にあるイルカなどのショーで使われている水槽と同じくらいの深さがあります。大きな水槽で、家庭から排出された汚水を、微生物の力で浄化しています。

発行元：

浜松ウォーターシンフォニー株式会社

〒430-0834 静岡県浜松市南区松島町 2552 番 1

TEL：053-424-7996 FAX：053-424-7997

ホームページ：http://www.hw-symphony.jp

本ニュースレターに記載された内容を、許可なく転載することを禁じます。



「シンフォニー通信」
バックナンバーはこちら

新型コロナウイルスの感染が拡大している現状を受け、2月現在、施設見学の受け入れを休止させていただいております。見学の再開につきましては、日程が決まり次第、当社ホームページ上でお知らせいたします。
<http://hw-symphony.jp/tour/>